

広報

加じま

第100号

40.5.25 発行

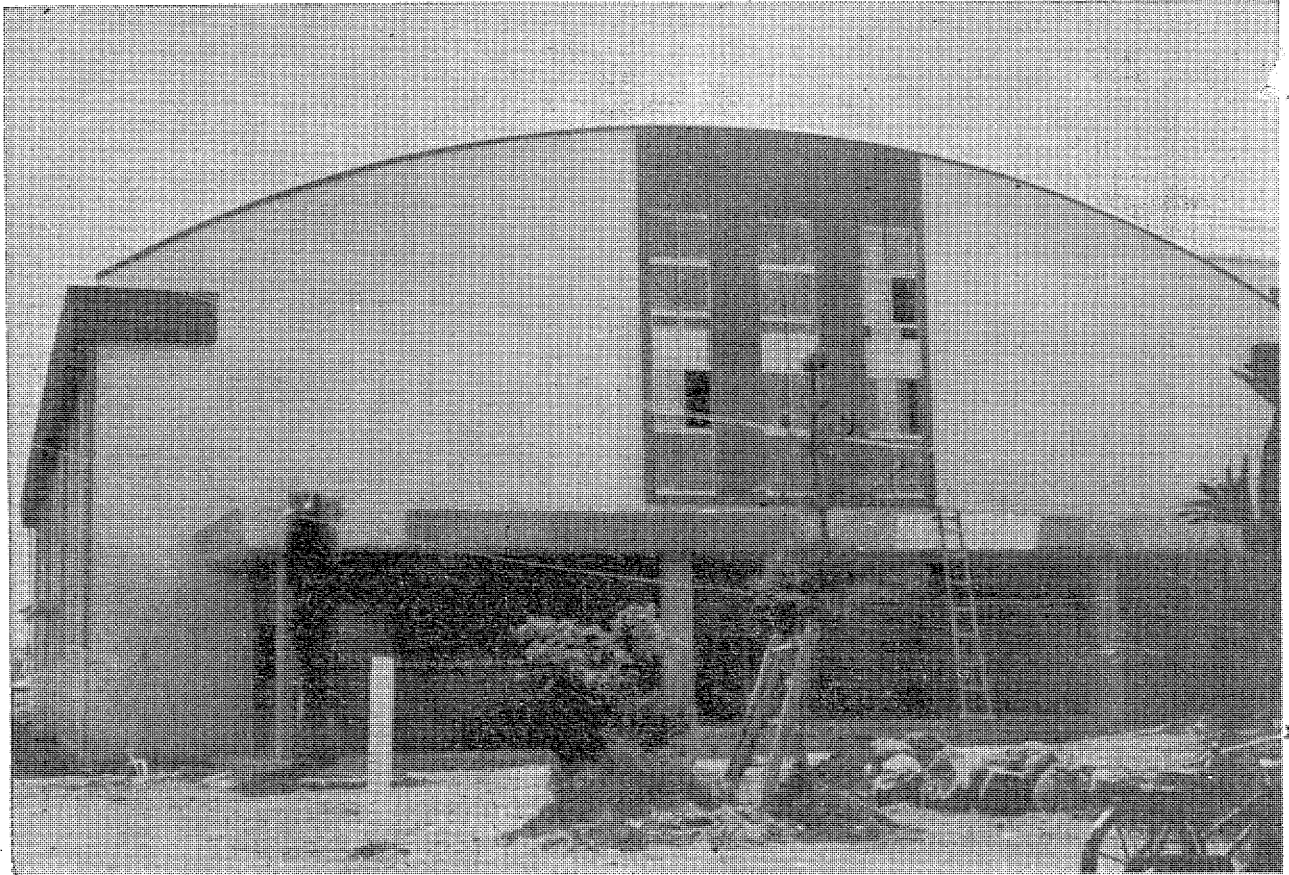
発行所 鹿児島県始良郡
加治木町役場

発行人 曾木隆輝

編集人 中元邦夫

印刷所 吉屋印刷

全ご家庭に、もれなく配布



＝ 加治木中学校屋内体育館落成 ＝

- …… 校区民の永年にわたる念願であつた屋内体育館は、昭和39年11月5日中島組によって工事が進められ、
- …… 去る5月14日に落成しました。この体育館は、鉄筋コンクリート造りで、屋根は鋼管構造によるダイヤ
- …… モンドシエルに断熱材を張り、野地板の上にルーフィング長尺カラー鉄板をふいてあり、競技室は二重
- …… 床張り、ステージ両脇に更衣室、シャワー室、用具兼準備室、床下に体育用具室、2階にはギャラリーを
- …… 廻し、背面に教官室と備品倉庫を設けられた近代設備を誇るもので、九州中の中学校では一番大きい建
- …… 坪の体育館です。のべ面積303.17坪 (1,002.25平方米) のこの校舎は2,025万円の経費がかかりましたが
- …… 、そのうち528万円が国の負担、起債650万円、一般町費647万円、200万円をPTA寄附によってできたも
- …… のです。このほか備品費としてさらに100万円をPTAが寄附され、なお、内容充実費として町内外多く
- …… の有志の方々から真心のこもった金品が寄贈されました。落成式2日目の15日は午前、午後にわたって
- …… 東京オリンピック体操総合優勝の遠藤選手、鞍馬6位の三栗選手を迎え午前1回、午後1回の体操演技が
- …… 公開され、また、本年結成された錬心館剣道スポーツ少年団外9団の代表に両選手から5輪マークのつ
- …… いた団旗が手渡しされました。

町議会議員構成かわる

議長中摩仙(再任) 氏副議長中原茂氏

五月十三日に開かれた臨時町議会で議員の構成が次のようにかわりました。()内は前任

議長中摩仙(同)、副議長中原茂(建設経済委員長)、総務委員長土橋智一(同)、同副委員長松田義則(文教厚生委員)、同委員垂内武夫(文教厚生副委員長)、同花牟礼一(建設経済委員)、同大童秀清(建設経済委員)、同湯川静夫(総務委員)、同岩崎偉(建設経済委員)、同中摩仙(同)、文教厚生委員長岩田一郎(建設経済副委員長)

()、同副委員長山崎昭(建設経済委員)、同委員大宮路篤男(建設経済委員長)、同築瀬憲(建設経済委員長)、同稲田進(文教厚生委員長)、同中原茂(建設経済委員長)、同前山新内(総務委員)、建設経済委員長古閑福太郎(副議長)、同副委員長郡山南男(文教厚生委員)、同委員森木栄(文教厚生委員)、同城松夫(総務委員)、同稻恒肇(総務委員)、同大童伝(文教厚生委員)、同下楠園豊栄(総務委員)

花いっぱいとしりいっばい 環境美化への努力を!!



“花いっぱい” 学級園の花



晴れ渡ったさつき空にさわやかな風を腹一ぱい吸って鯉のぼりが泳ぎ、学級の花園や家庭の庭には色とりどりの花が咲き乱れ、森の木々はその緑を日ごとに増していく。これがこのごろの私たちの郷土加治木の風物です。しかしながら、これがすべてではありません。試みに網掛川の堤防を歩いて見ますと、莫大な経費をつぎ込んで出来上った立派な堤防の下にはちりやゴミがあちこちに捨ててあります。まさに「花いっぱい!! ちりいっばい!!」。これがほんとうの姿ではないでしょうか。川や堤防にちりやゴミを捨てるのが環境衛生の面からも、町の(ちりいっばい)網掛川の(ちり)

美化ということからしても良くないことは誰しも知っていることではありません。それでも捨てられている。これには理由があるはず。近くに適当なちり捨て場がないとか、ちりを集めて来る人がないとか、さらには環境衛生、町全体の美化に対する関心がうすい人がいるといったようなことが挙げられるでしょう。

町としては、その対策として港町に塵捨場を購入し、失対の作業員が清掃に従事してきましたが、何しろ手車による処理のため能力にも限度があり、増加する一方のちりやゴミを処理し切れないのが現状です。

そこで新たに塵捨場を購入する一方、新年度予算で百五十万円の収集車購入を含めて、塵芥処理費として四百六十万円を計上し、環境衛生、環境美化に一層の努力をする計画を進めております。

捨てられているちりの中には、燃えやすい紙屑や木切れ類も相当量ありますが、これらはなるべく家庭で風のない日を選んで焼いていただき、水分の多いものはできるだけ乾かして、捨てるちりを最少限にとどめるよう心掛けることもまた、より大きな効果を期待できる方法だといえます。

「きれいなものは見て気持がよく、みにくいものには顔をそむけたい」これが人情というものです。町と町民が一体となって、ちりやゴミのないきれいな住みよい町にしていきたいものです。

断水の心配解消

第三水源地工事完成

この数年来土水道の水源がだんだん少なくなつて、その上昨年は日照りつづきで飲み水が不足し、町民の皆さんに迷惑をかけていましたので、三九年度は小山田の崎森川の川底の水をとる工事を進めてきました。やっとならぬほど出来上り、これで今夏の心配は先ずなくなりました。

しかし、給水人口がもっとふえ水がどしどし必要になると、不足することも起りますので、将来のことも考え、さっそく第四の手も今から計画しなければならぬ時期にきています。

x x x x x

世帯人口の動き

(昭和40年5月1日現在)

◎ 世帯数	5,369
◎ 人	19,789人
男	9,277人
女	10,512人
◎ 4 月中の自然増減	
出生	13
死亡	16
転入	359
転出	404

7月4日は参議員選挙

明るく正しい選挙を

良心に従って投票しよう

参議院議員選挙を目前に控え、関係方面の運動もはげしくなり、すでに私どもの周辺でも事前運動にまぎらわしい行為をよく見受けま

す。今回行なわれる参議院議員通常選挙は、六年前の三十四年に選出された半数の議員が六

月一日で任期満了となるので、予測されていた定期的な選挙であります。地方区選出議員百五十名の半数、全国区選出議員百名の半数が選出されることとなります。

そこで、いつもながら憂慮されるのは、「目的のためには手段をえらばない」選挙ポスの横行であります。選挙関係当局、公明選挙推進協議会(明るく正しい選挙推進協議会と改称)、民間団体により、長い間続けられてきた選挙浄化運動の苦心にもかかわらず、選挙のたびに買収、供応、情実等、今なお違反はあとを絶ちません。

この原因は何か。よく考えて見る必要があるのではないでしょう。か、議会政治七十五年、普選四十

年、そして婦選二十年という今日こんな状態ではいはずがありませ

ん。しかし、現実は何んとも否定できません。前回行なわれた衆議院議員選挙の結果をみても、おせじにも立派な選挙とはいえず、違反者はその数を増しています。このことは一般に選挙犯罪を軽視し、犯罪を犯罪と考えないところ

に起因するものではないでしょうか。これらの原因はもちろん候補者側にもありますが、帰するところは選挙民一人一人がよく政治意識に徹し、自主性をもって選挙の

にぞみ、自分の良心に従って適格者を投票する以外になく、その時こそ正しい選挙が行なわれるものと考えます。

青少年を悪の道から守るには、円満な家庭環境が何より大切ですが、五月から毎月第三日曜日を

毎月第3日曜日は 家庭の日

「家庭の日」と定め、青少年を中心にした日とするのになりまし

- 夕食後ゲームで楽しむ。
- 家庭内の仕事はみんなで分けあい協力する。
- 家族みんなで夕食をともにし、笑顔で話しあう。
- みんなで野外にでかけ、自然に親しむ。
- 栄養を高め、健康に気をつける規律正しい生活をする。
- 海水浴場や山登りにそろうてでかける。
- 家族同志仲よくし、お互いに感謝しあう。(よそに行っている家族には手紙を出す。)
- みんなでスポーツを楽しむ。
- 家族をろうって読書に親しむ。
- みんなで一日のうち一つでもよいことをする。

東助役の再任と 川原教育委員任命

五月十三日の臨時町議会で任期満了により、東国雄助役の再任が決定しました。

また、山下前教育委員の死亡に

川原教育委員任命

よる後任に川原光氏が選ばれました。同氏は長い間、町の図書館長や公民館長をし、町議一期も経験のある方です。

香典返しを寄附

町社会福祉協議会へ

- 一金壹千円也 錦江町 米森俊郎殿
- 一金参千円也 本町 川畑政男殿

- 一金参千円也 桑迫 中原シツ殿
- 一金参千円也 朝日町 堂免ケサ殿
- 一金貳千円也 下新道 原田チエ殿
- 一金参千円也 永原 内村辰二殿
- 一金壹千円也 小田倉 元山春男殿

町育英資金へ

- 一金五千円也 植原 山下シツ殿
- 一金参千円也 塩入 北園トシ殿
- 一金貳千円也 飯屋町 福村寅雄殿
- 一金貳千円也 川原 篠崎初次郎殿
- 一金二千円也 岩原西 齊藤紀雄殿
- 一金五千円也 萩原 市来コト殿
- 一金参千円也 中野 永吉清美殿
- 一金貳千円也 小陣 山森正治殿
- 一金貳万円也 東京都 林タマ子殿

右は諒訪町の和田寛さんを通じて寄せられました。

ご芳情有難うございました。

一般用米穀通帳の切替え

すまない方は早目に

食糧管理法の一部改正で、米穀通帳の切替えを四月中に行ないましたが、まだすんでいない方は早目に役場住民課で手続きを済ませてください。

また、今後は世帯員の一部転出や転入についても、必ず米穀通帳を持参されるようお願いいたします。

40年度の施政方針については、本紙99号(40・3・31発行)で前年度の反省点として土木関係と、産業関係について紹介しましたが本号では教育関係と40年度予算編成の基本的考え方について紹介いたします。才出、才入の項目別説明は今後事業の執行と合わせてお知らせすることにします。

教育費関係

第二共同調理場をPTAの協力の

町長施政方針

(つづき)

の下に、加中に開設いたしました。加中一四〇名、錦江六二七名のために給食を開始いたしました。永原中学校の家庭料一教室木造三〇坪、工事費一二三万円、新築いたしました。加中屋体は県下だけでなく九州中の中学校では一番大きい建坪の施設が二千二十五万円完成しました。また、加中危険校舎の一四坪も九三〇万円、改築補助グラウンドの購入も済みまして、また、他の市町村ではまだ殆んど例のない各小中学校の校長住宅も完成しました。PTAや校区の方々の教育愛の強さがこれら施設にも表われたと申すべきであり、町としても教育委員会と相談

し背のびしながらも、せめて義務教育は他町村におくれをとらぬように努力して来ましたが、学校当局の努力も大いに見えるべきものがあつて、実績が表われつつあると申し上げていいと思つて、他方また社会教育、社会体育面でも僅かな職員で精一杯の努力をしてそれぞれ一歩でも前進する実績があつたものと信じます。勿論婦人会PTA、部落懇話会、体育指導員なども申し上げねばならぬと思つます。

以上三つの柱を中心に建設経済社会福祉、水道、国民健康保険等のそれぞれの各分野において、少くとも町民の福祉向上のため町の発展のために一般会計で二億五千八百万円、水道で三千九百四十万円、国保で三千六百二十万円、これを合計すると変な風になります。また、また三億三千三百万円余りの予算をもつて本町の行政を遂行してこの年度を終らうとしていくわけであり、私共の力の足りなかつた点充分反省して、加治木町の人口は、昨年二月末配給人口では一九、五〇三人でございます。本年二月末では一九、九八二人となつていますが、これは勿論配給人口であり、住民登録人口では昨年二月末が一九、〇六七人、本年二月末一九、二九六人となつておりますので正確にその人口の把握は困難なわけですが何れにしても一万九千五、六百と思われまふ。

新年度の子算編成

の基本的考え方

すが地方の人口は年々激しく減少しつゝございませ折柄、本町は減るには減つても他の町村よりもその率が少かつたように見受けますが、今後人口確保について一段の努力が必要であると、こう反省いたしております。

次に予算案について申し上げます。かゝる現況の上に立つての本年度の予算の編成をすることになつたわけであり、ご承知のとおり政府は社会開発という根本的な考え方をもち、新年度に対処しようとしております。本県は農業の近代化、工業の育成及び観光の三つを柱として重点的に考慮しようとしております。私はこれらの施策はそれなりに今後予算的にも、実際の指導面でも表われて来るものと信じ、これに対応するは勿論であります。本町としては本町なりに考えてかゝらねばならぬと思つて、即ち南九州開発都市の構想が打ち出されていることはご承知のとおりでございます。これからの町政はその方向に、一歩でも近づくことを考えねばならぬと考へてまいりました。

次に本町の予算はあくまでも健全財政の立前を堅持したいと思つて、従つて最大の努力はしますが、無い袖をふるようなことはしてはならないという方針で望

みまして本町が薩摩、大隅両半島の間中に位置して海陸又は空の要衝となる日に近いことを考えまして、鹿児島島の東の翼をなしているような形になりますので将来住宅地或いは又小規模の工業都市として所謂整つた田園都市として発展の希望がもたれること等を考えます。矢張り本年度の予算的な考え方といたしまして、その基盤となる点即ち広い意味の環境整備が先ずあげられねばならぬと思つたわけであり、これはその内容として道路橋梁等の土木事業、公営住宅の増設或いは環境衛生の整備等整つたきれいな町、住みよい町づくりをすることが挙げられると思つて、

次に町民の生活を向上させるためには、やはり産業を振興させることが必要であります。商工業を興し、中小企業の誘致をはかり、一方農家所得を一段とふやす工夫をすることが大事であります。これがとりも直さず農業の近代化といふことにつながると思つて、また、社会開発になると思つて、最後にやはり教育にできるだけの投資をして人材を世に送り出すことが大事であります。

少くとも単に義務教育だけでなく町の少年の大部分が出来るだけ高い教育までうけて立派な社会人となるようにし向けることが望ましいと思つております。そうすることが、又、町民の文化的水準を高める結果ともなりますし、又、

成人して物事をよく理解し、文化的平和的と申しますか福祉国家の建設に役立つのではないかと信じます。勿論相当な金もいりますが決してこれはすて金ではないと思つて決してあります。頭脳だけでなく、これは精神方面、体育の点でも同様に考えたいわけであり、これらの意味でこの三つの点を考えながら予算を組むことにいたしました。

才人面では、町民の方々の負担をなるべく少くすることが必要と存じ、町民税を本文方式に改正することに、より少くとも五百万以上は引き下げることを考慮に入れて取りかかれました。事実もつと引き下げておりますが、これが又町民に対して大きな福祉になるという見地に立つたわけであり、これは町民税だけでなく健康保険税においても、他の都市の町村は殆んど税率を変更いたしました。新年度から引き上げを提案して、私は幾分今後の運営面で無理が伴うかも知れませんが今日の所は意を決して、先づこの税率は据置いて組むようにいたします。



(おわり)

子どもに喜ばれる網掛川公園



町では都市計画事業で網掛川のほとりに児童公園(垂之口児童公園)をつくる計画をすすめていますが、工費一四万六千円をか



け、鹿児島市野元建設の手で面積二、五〇〇平方米、長さ二〇〇米の立派な公園をこのほどつくりました。今まで狭い危険な道路で遊んでいた子どもたちは喜んで遊んでいます。これからさき子どもたちが戸外で遊ぶ機会が多くなりま

毎月15日は 清掃の日 郷土を美しく

(写真は網掛川児童公園で遊ぶ子どもたち)

心に火をたく献本運動 推進会が生まれました

町立図書館では、五月五日の子どもの日を中心に「みんなの本を

町内の読書グループは現在三〇で、一、四〇〇冊を配本しています

今回南日本新聞社、県立図書館などは25機関、団体が戦後20年の日本が、物質文化に偏して郷土への愛着を失い、豊かな情操と精神の秩序を乱しかな現状を考

○あなたが贈ってください一冊の本、これは町民の心をうるおし、郷土「加治木」をより豊かに住みやすく築いてゆく大きな源であります。

○どうぞこの運動の趣旨にご賛同

献本の方法

くださいまして一人でも多く献本

○献本は(図書購入費)または図書でお願いします。町内各地に計画的配本する関係などで、なるべく現金でお願いします。

○送付先は、加治木町立図書館内 献本運動推進本部あて

- 会長 曾木隆輝
副会長 桑幡元長
推進本部長 野元 茂

委員 各学校代表、グループ代表(読書会)、若干名、青年農協、町技連、商工会、青少年問題協議会、(各一名)、各小中PTA会長、町婦人会長、教育委員長、社会教育委員長、公民館運営審議会委員長、文教厚生委員長、南日本新聞加治木支局長、学識経験者、顧問、加治木町議会議長、加治木警察署長。

新年度事業

国の補助の見とおし

予算折抄のため四月中旬上京した町長は、帰任して 結果を次のように発表しました。
労働者関係
ダンブカー一台の購入費補助
決定
建設省関係
(一)女学校通り線(郵便局前)→税務署前)舗装決定
(二)天神通り線(上新道) 舗装決定

(一)網掛川 護岸決定
(四)蒲生有 川線(加治木町内)
(五)及び飯野加治木線)
(六)小山田

(七)継続事業 決定
(八)住宅 さしあたり二〇戸決定
(九)墓地公園
(十)農林省関係

関係
(一)偶原農道補助決定
(二)自治省関係
(三)起債陳情(未決定)
(四)文部省関係
(五)加中危険校舎改築補助申請(未決定)

視察報告

①

稲田 進

町議会では去る二月二十五日、三班に分かれ、それぞれ大口市（し尿処理施設と養魚場）、菱刈町（養鶏農場）並びに吉松町（土地改良地区）を視察しましたが、その報告を次に紹介します。（本号では大口班について紹介し、菱刈、吉松班は次号で紹介）

私共のグループは中原、犬童秀清、垂内、松田、稻恒、稲田の各議員であります。大口市を視察いたしました。主な視察か所は市立のし尿処理施設と養魚場であり、その大要をご報告申しあげます。

し尿処理施設の施行者はえ原製作株式会社で、方式は消化方式散布ろ床式と申します。

処理能力は一八キロ立、一日に一萬八千人分（大口市の総人口は三九、〇〇〇）、敷地面積としましては、三、五一八平方メートルとなり、建設費総額は三、九四五万円余であります。（うち国庫補助金、県補助金、起債等を差引きまして、一般財源は一、四〇〇余万円となっております）

参考まで申し上げますが、本町の加入している組合の施設は三〇キロ立で三万人を対照としたものでありまして、経費は六千万円ぐらいに予定されているようであり

ます。

着工は三七七年二月一日で、三九年三月一日に竣工しておりまして、完成に二年三ヶ月を要しております。

●用地の選定

問題の用地の選定については、次の点を考慮して最適と考えられる場所を考えたといふことです。

- (一)市街地に近く、大口市のほぼ中央であること。
- (二)市街地及び附近住家から苦情の出ないこと。
- (三)希釈水が容易に得られること。
- (四)放流水について苦情の出ないこと。

向将来下水道に転用出来ること
●苦情の問題
苦情は出なかつたかという質問をしてみましたところ、ご多聞にもれず相当の苦情が出たので、幾日もその人たちと話し合いをして説得に努めた結果、その了解を得た。出来上つてみると、こんなものであつたかといふことで、全く非難や苦情を聞かないといふことでした。

成るほど、全く臭いはなく、きれいな施設で敷地内は芝生と植樹をして、作業員が常に清掃に努めておりますし、清掃車は日に五六台の割で予期に反して非常に少なく、施設はむしろ遊んで見る有様であるといふことでした。

なお、向うは清掃車一台について七百円をとって、これも異例な事だと思つた次第です。われ／＼驚きましたことは、放水口の二〇〇米ぐらゐ下流には、

大口市の上水道取り入れのタンク施設があるといふことで、これについても市民はあまり関心はなく、苦情もないといふことでした。視察員一同わが町に出来る施設についても、これなら附近住民の納得を得られるだろうといふ感じをいただきました。

次に養魚場を視察しました。

この養魚場はその建設当時、わが加治木町も誘致運動をした関係もありまして興味深く視察いたしました。

場所は、大口市街地からバスで約十五分ぐらゐかゝる十曾池の附近にありまして、用水を得るのに便利なところで、今から当時を顧みますと、わが町は竜門温泉と結びつけて、あのマメツケの水を考へておりましたが、現地を視察しますと、とてもあれぐらゐの水で足るものではありせん。始めからウソノ木の水を考へていたらよかつたのではないかと思ひました。

始めは鯉、うなぎ等の養魚をしましたが、水が冷たいため結果がおもしろくなく、ニジマスに切換えたといふことで、まだたくさん数もなく、且つ成魚も少なく寂しい感じでした。今年あたりから稚魚の販売等も始め、充実して軌道に乗る予定とのことでした。現在十曾池の観光客目あてのニジマス薫製の販売をしているといふことですが、時日の経過とともに発展する有望な施設と感じつつ次第です。

加治木をテレビで紹介

五月と六月毎週日曜日

ロビン フッドの冒険の時間に



旭相互銀行の企画で、加治木町をテレビで紹介することになり、四月二十二日、ロケ班一行八名が本町を訪れ、竜門司焼、竜門滝、温泉、黒川岬その他数か所を撮影しました。

放送は五月二日から毎週日曜日午前九時三十分から「ロビンフッドの冒険」の時間に行なわれ、六月まで続けられます。

わずかな時間つつではありますが、町としても観光その他の面で大きなプラスになることと期待しています。

（町長室でのロケ風景）

役場では

庁内放送を始めました

町役場では四月から庁内放送を行ない、各課、各事務局への連絡や緊急事態の連絡に供しています。また、毎日午後三時から約三分間、室内で簡単な体操を実施します。これは職員に健全な身体と精神の育成に役立てるためのもので

この時間においでの際はまことに恐縮ですが、しばらくの間お待ち願いたいと思います。なお、その際は職員と一諸に体操をしていただくことをおすすめします。

加中補助グランド工事始まる

自衛隊員 35名で

かねてから懸案となつていた加中補助グランドの整地作業が、五月七日から自衛隊第五施設群の隊員三十五名により始まつています。敷地面積七、七五三平方メートルに対し小山田布越から約五千立米の土砂をアングルドレーザー、バケットローダー、クレーントラック等を

使って九台のダンブトラックで運搬、整地を行ないます。工期は四十五日間の予定で、郷土館日本間を宿舍にし、部落PTAで交替にお世話をしていますが、工事現場ではじまにならないよう、そして宿舎ではその労を心からねぎらつてやりたいものです。

失対事業場めぐり

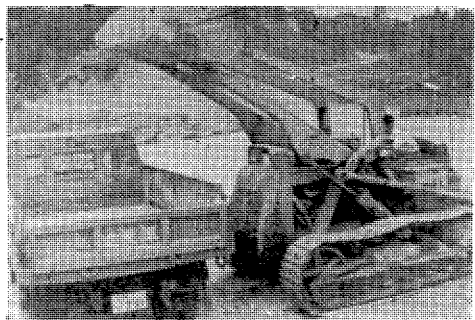
トラクターシヨベル

隈原砂採り場で活躍

このたび町では、建設省からトラクターシヨベルを二十五万一千円で購入し、四月六日から失対策事業の隈原砂採り場では作業員約十名とともに活躍しています。

採取した砂は町道の補修に使いますが、従来の人力による積み込みにくらべ、驚くほどの能率をあげています。

活躍する
トラクターシヨベル



地方税の負担を軽くすることその合理化をはかるため地方税法の一部が改正され、昭和四十年から適用することになりましたので、その主な点についてお知らせします。

(一) 町民税

個人町民税は課税の方式が「ただし書方式」から「本文方式」になり、従来の基礎控除(九万円)のほか次のものが所得又は税額から控除されることになりました。ただし、三月二十日まで町民税の申告をしなかつたり、又は控除に関する事項の記載がない場合は控除されませんので、今後は注意してください。

(一) 所得控除

扶養控除Ⅱ一人目七万円(妻の年所得が五万円以上の場合五万円) 二人目から三万円、のほか雑損、医療費、社会保険料、生命保

険料、専従者控除等の各控除があります。

(二) 税額控除

障害者、老年者、寡婦(扶養親族を有するもの) 勤労学生については一人千円が税額から控除されます。

○税率

従来標準税率が標準税率に改

個人町民税大巾に減税

地方税法一部改正

められ、その一、五倍までは認められていますが、当町は標準どおり最低の税率としました。

○法人町民税の税率

従来百分の八、一が百分の八、四と改正されました。これは法人税の引き下げに伴う町民税法人税割の減収をさげるために改正さ

れたものです。

○非課税の範囲

障害者、未成年者、老年者及び寡婦の非課税の範囲が従来の二〇万円が二万円に引き上げられました。

(二) 軽自動車税

四輪以上の乗用軽自動車税の年税率が従来三千円から四千五百円に引き上げられました。これは自動車税の税率引き上げに伴い改正されたものです。(以上法の改正による)

(三) 犬税のはい止

犬税は法定外の普通税として従来課税していましたが、本年度から廃止することにしました。なお、さらに詳しいことは税務課にお問い合わせください。



行政相談委員制度

行政管理庁は国の行政などについて、不平や不満をもっている人たちのために、その苦情をきき、相談を受け、その解決にあたって

います。

行政相談委員制度は、昭和三十六年に設けられたもので、相談を受けける行政の範囲は、国の行政機関が行なっている行政事務はもちろんのこと、国の委任や補助金などを受けて行なっている業務も含まれますから、これらについての相談は何でも受け付けることになっています。

委員は自宅に「行政相談委員」の標札をかかげており、自宅で相談に応ずるほか、公民館、役場、学校などに相談所を設けることもあります。

本町の相談員は仮屋町の前山新内氏が再任されました。

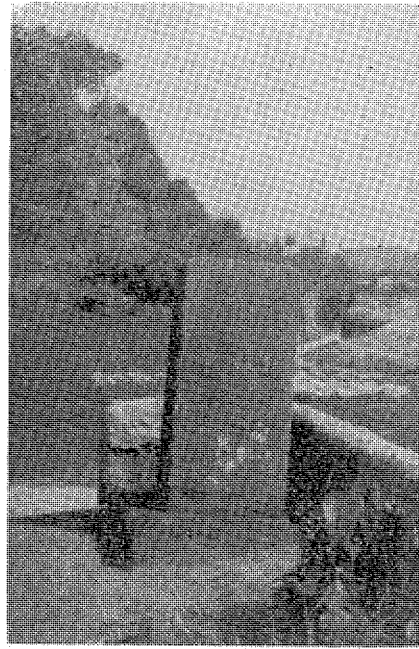
- × × × × × × × ×



史跡 ③

鴻の巣園跡

ここは島津義弘公別荘のあったところで、朝鮮の役で俘虜となつた年少朝鮮国王をおいでいたといわれている。



生活安定のためにぜひ簡易保険を

「契約高四兆円達成新加入運動中」

簡易保険は国民の合理的な生活設計と計画貯蓄の習慣を助長し、その生活の安定と福祉の増進に寄与しております。現在その契約高は三兆六千億円に達し、一方加入者の皆さんから払い込まれた保険料は、一兆二千億円の資金となつ

てその大部分は政府関係機関、地方公共団体の施設の拡充に大きく貢献しております。

この運動は簡易保険の加入を広くすすめて国民経済の向上発展を図るとともに、契約高四兆円達成を促進するため五月一日から六月

王子はさびしさに堪えられず何時も朝鮮に帰りたいと泣き望み、公はその心情を慰めるため時折り附近の高峯に連れ登り、酒肴とともに舞をさせるなど、遙か遠く朝鮮の方角を望ませて慰めたといふこの峯を「高麗舞の峰」といふさて、木田中福良部落から西へ西之原部落へ向つていくと湯之谷川に出る。ここで右折し湯之谷道路を上つていくと田圃をへだてて右手高台に人家が見えてくる、これが別荘跡である。

今はその跡に加治木島津家第四代久徴公(錦水)建立の一鴻巣園記の石碑がある。

そこに立ち「高麗舞の峰」と名付けられた由緒深い感慨に浸るとき、その高峯は何れであろうか：おそらく五老峰のどれかの山であろうと考えられそれを思うよう、朝鮮国王の心情がわかるようである。

三十日までの二か月間、大蔵、文部、自治各省のほか貯蓄増強中央委員会ならびに関係十五団体の協賛を得て全国的に展開することになりました。

加治木郵便局保険課においてもこれに呼応し、加治木町役場をはじめ教育委員会等の協賛を得、目下この運動を展開中であります。

●加治木町への寄与
簡易保険に加入者の皆さんが払い込まれた保険料は、加治木郵便局保険課の窓口を通じて直接加治木町役場に貸付けられ、その資金は二十九年三月末現在で次のとおり

義務教育施設	三、三一〇万円
町営住宅	二、二五〇万円
港湾事業	五、二〇〇万円
高井田温泉	五、〇〇〇万円
都市計画事業	四、一〇〇万円
道路橋梁	二、〇〇〇万円
社会事業施設	一、五〇〇万円
災害復旧事業	三、〇〇〇万円
合計	七、三七〇万円

このように簡易保険は加治木町内の皆さんのために役立っています。個人の幸福はもちろん加治木町発展のために、ひいては社会全体の福祉増進のため重要な役割を果しております。

健康な文化生活を築くため簡易保険をぜひともおすすすめします。

●クローバー保険
皆さんの要望と技術が生んだ新種保険で、通称三倍保障のクローバ、保険は、例えば満期の場合の保険金五十万円とすると死亡の場合合は百万円、不慮の災害による事故死亡の場合は百五十万円を支払うもので、家族の生活保障、こども達の進学、結婚資金として加入目的を同時に満たすことのできるもので、必ず皆さんの要望を満足させることができると思ひます。

この保険は保険料払込期間は十五年と二十年の二種類です。加入できる年齢は二十歳から五十歳までとなつており、加入されたときに安心できる保険です。

簡易保険は加治木町の皆さんとともに生活安定と向上をはかるため、四兆円達成促進運動を展開しておりますので、皆さんのご理解とご協力を得まして、ぜひご加入ください。また詳細につきましては郵便局より保険セールスマンをお伺いさせ、生活設計のご相談に応じます。

なお、加治木局だけの施策として、五、六月中の加入者で対して五十万円以上ご契約のかたに対しては、高額加入記念品を贈呈することに なつて います。

△昭和25年2月、町政だよりとして本紙が発行されてから15年になります。その間、町政とみなさんとの橋渡しの役を充分果たしてくるような「広報かじき」をと企画編集してきましたが、いつも不満足なものに終わつてしまいました。△今回から発行一〇〇号を記念して週刊紙スタイルにしました。ご愛読ください。

あゝとがき

△昭和25年2月、町政だよりとして本紙が発行されてから15年になります。その間、町政とみなさんと